

# シャチ 北西太平洋

Killer whale *Orcinus orca*



## 管理・関係機関

農林水産省

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 9.8 m・10 トン、雌 8.5 m・7.5 トン（体長：上顎先端～尾鰭分岐点）
- 分布：北太平洋を含む世界中の広い海域
- 寿命（平均）：雄 31 歳、雌 46 歳
- 性成熟年齢（平均）：雄 13.0 歳（背鰭の伸長による推定）、雌 14.1 歳（初産年齢、初回排卵は 1.4 年以上前に生じるとされる）
- 繁殖期・繁殖場：不明・不明
- 索餌期・索餌場：周年・特に高緯度域が重要と考えられる
- 食性：イカ類、硬骨魚類、軟骨魚類、海亀類、海鳥類、アザラシ類、アシカ類、鯨類
- 捕食者：サメ類（幼獣）

## 利用・用途

水族館展示、ホエールウォッチング等

## 漁業の特徴

本種の捕獲は、かつて小型捕鯨業及びイルカ追い込み漁業でさかに行われていた。小型捕鯨業による捕獲は、主に房総～三陸沖（47.6%）と北海道周辺（36.9%）であり（1948～1972 年）、イルカ追い込み漁業による捕獲は、和歌山県太地で行われていた。

## 漁獲の動向

小型捕鯨業による捕獲は、戦後 1960 年代半ばまでは年間数十頭で推移してきたが、1966 年から 3 年間で年間 100 頭以上を捕獲して以降、急激に少なくなり、1972 年以降は年間多くとも数頭程度で推移した。イルカ追い込み漁業による捕獲は、1963 年以降合計 87 頭であり、水族館用の生体捕獲も含まれていた。現在、これら漁業による捕獲は禁止されており、1997 年に試験研究目的の特別捕獲により 5 頭が捕獲されている。

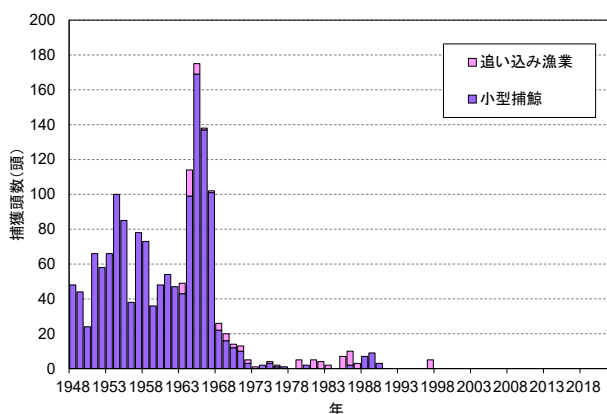
## 資源状態

北西太平洋（北緯 20 度以北、東経 130～170 度の太平洋とオホーツク海）における本種の生息頭数は、1992～1996 年、8～9 月の目視調査の解析から、北緯 40 度以北で 7,512 頭（CV = 0.29）、北緯 20～40 度で 745 頭（CV = 0.44）と推定された。また近年、空間分布モデルの手法を用いて、過去 24 年分の目視調査データを再解析した結果から、北太平洋における生息頭数は 19,521 頭（CV = 0.21）と推定されている。捕獲が禁止されているため、資源状態は安定または回復傾向が見込まれるが、資源の動向調査が行われていないため、資源水準は不明。北東太平洋では系群に相当するエコタイプ（生態的・遺伝的に異なる集団）が複数存在することが知られているが、近年日本近海でも同様に、複数エコタイプの存在が示唆されている。ただし、日本近海での観察例は極めて少数に限られていることから、系群構造については今後十分な検証が必要である。

## 管理方策

現在、捕獲は禁止されている。

シャチ（北西太平洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	不明
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0 頭
資源評価の方法	ライントランセクト法に基づく目視調査データ解析から資源量推定
資源の状態 (資源評価結果)	東経 170 度以西の北西太平洋のうち、北緯 40 度以北に 7,512 頭 (CV = 0.29)、北緯 20~40 度に 745 頭 (CV = 0.44) と推定。捕獲が禁止されているため資源状態は安定または回復傾向が見込まれるが、資源の動向調査が行われていないため、資源水準・資源動向は不明。
管理目標	継続的な個体数モニタリングを実施
管理措置	捕獲は禁止
管理機関・関係機関	農林水産省
最新の資源評価年	宮下 (2007)、Kanaji <i>et al.</i> (2017) に資源量推定値の報告あり
次回の資源評価年	未定



我が国のシャチ捕獲頭数の推移 (1997 年の追込み漁業による捕獲は試験研究目的の特別捕獲)